

令和6年度 学校評価アンケートの結果・考察

学校教育目標「高い志をもち、たくましく生きる子供」の育成を支える3つの柱について、児童生徒、保護者アンケートを集計しました。今年度は、令和3年度中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育の構築を目指して」を受け、設問項目を一部変更し、設問の仕方についても「学校は〇〇という指導をしている。」という表記から、子供を主語にした表現に改めました。学校と家庭、地域とが協働ながら子供たちの育ちを支えていくという視点から包括的に子供たちの実態を明らかにし、学校すべきことについて考察をしました。

※「そう思う」「大体そう思う」と答えたの割合

志をもって本気で努力する子		児童					保護者					教員	
		R5 平均	R6 平均	R6 基礎	R6 自立	R6 充実	R5平 均	R6 平均	R6 基礎	R6 自立	R6 充実	R6 平均	
①	わたし（お子さん）は、授業の内容をだいたい理解することができている。	基礎的基本的な学習内容の理解	88%	89%	89%	95%	86%	新規項目	78%	84%	82%	67%	94%
②	授業では、一人ひとりの興味関心に合わせて、課題や方法、発表の仕方等を選ぶ機会があった。	学び方の指導個に応じた支援	新規項目	86%	86%	91%	82%						
③	わたしは、学校生活でチャレンジしてみたいことやできるようになりたいことを見つけることができました。	主体性の育成	85%	87%	89%	85%	84%						
④	学校では、自分の生活や将来に役立つ学びができている思う。	キャリア教育	90%	89%	88%	93%	87%						
⑤	わたし（お子さん）には、こうなりたいという夢や目標がある。	目標設定の力	84%	84%	89%	86%	77%	68%	71%	72%	70%	72%	94%
⑥	（お子さんは）自分の力を伸ばすために、工夫してチャレンジ学習や習い事に進んで取り組んでいる。	自己教育力	83%	83%	87%	80%	80%	新規項目	73%	74%	73%	73%	100%

- 《成果》 ・チャレンジしたいことや目標を見つけ、夢や目標をもって生活をしている児童生徒が増えた。
 ・児童生徒の授業に対する満足度は高く、また基礎的基本的な内容を理解していると感じている。
- 《課題》 ・基礎的・基本的な学習内容の理解という点で、特に中等部生徒と保護者で10ポイント近い差が見られた。
- 《改善案》 ・中等部のテスト計画やテストカード等に、生徒が記入する振り返りと保護者からのコメントの双方を記入する欄を設け、取り組み状況や目標等を家庭と共有する機会を増やす。

令和6年度 学校評価アンケートの結果・考察②

自他の良さに気づき、互いに認め合える子		児童					保護者					教員	
		R5	R6	基礎	自立	充実	R5	平均	基礎	自立	充実		
①	わたしには、自分で選んだり、考えたりする力がついている。	生きる力の育成	85%	84%	84%	83%	84%						
②	学校は、子供の多様性を認め、子供自身が主体的に考え、判断する場を大切にした教育活動を行っている。							新規項目	81%	81%	81%	82%	85%
③	わたし（お子さん）は、自分のよいところや直したいところがある。	自己理解・自己肯定感	85%	89%	90%	91%	86%	82%	85%	85%	89%	83%	97%
④	わたし（お子さん）は、いじめはどんな理由があっても許されないと思っている。	いじめの理解	新規項目	85%	76%	89%	95%	新規項目	98%	97%	99%	100%	94%
⑤	わたしのクラスや学年は、いじめを絶対に許さないという雰囲気がある。	いじめ未然防止	75%	69%	65%	64%	77%						
⑥	わたしは、困ったことがあったとき、先生や友達に相談できる。	いじめ早期発見・早期対応	76%	80%	81%	77%	79%						
⑦	わたしは、困ったことがあったとき、先生や友達と一緒に解決することができている。		77%	80%	82%	79%	79%						
⑨	学校は、いじめの早期発見、早期対応に努めている。							86%	86%	87%	87%	85%	92%

- <<成果>> ・「考えて選択する機会」を大切にされた教育が浸透し、児童生徒の自己理解や自己肯定感が高まった。
 ・困ったことを相談できる場が校内にある児童生徒が増え、いじめの早期発見・早期対応という面で改善が見られた。
- <<課題>> ・いじめに対する理解やいじめを許さない風土づくりという面の指導が、不十分であることが明らかになった。
- <<改善案>> ・いじめの未然防止を目指し、学級活動や道徳の時間を活用して、人間関係づくりのプログラムを取り入れる。

令和6年度 学校評価アンケートの結果・考察③

地域や社会のために貢献できる子		児童					保護者					教員	
		R5	R6	基礎	自立	充実	R5	R6	基礎	自立	充実	R6	
①	S Fでは、力いっぱい体を動かしたり、友達を応援したりすることができた。	学校行事	93%	93%	94%	90%	93%	94%	90%	91%	89%	87%	97%
②	M Fでは、友達と心を一つにして発表したり、演奏を楽しんだりすることができた。		93%	95%	95%	94%	95%						
③	わたしは、部活動に積極的に取り組んだ。 (部活動に参加していない児童は記入しません)	部活運営	77%	97%			99%	96%					
④	わたしは、よりよい学校や学級を作ることを目指して、様々な活動 (委員会活動、係・当番活動、清掃など)に取り組んだ。	主体性・自律性	93%	92%	90%	92%	94%						
⑤	わたしは、自分からあいさつをしている。	挨拶	87%	87%	88%	82%	90%	89%	78%	74%	77%	84%	88%
⑥	学校は、地域人材や地域の施設などの教育資源を活用している。	学校における 地域資源の活用						新規項目	80%	85%	80%	73%	89%
⑦	お子さんは、浜松市や住んでいるは地域のよさを感じたり、進んで行事に参加したりしている。	地域社会との つながり						新規項目	63%	67%	62%	58%	97%
⑧	学校は、お便りやホームページ、ブログ、さくら連絡網などで教育活動の様子を知らせている。	情報公開						87%	90%	91%	91%	87%	89%

- <<成果>> ・行事・部活動の運営について児童生徒、保護者共に概ね満足をしている。
 <<課題>> ・生活科や総合の時間には、地域と関連付けた学習をしているが、地域とのつながりが校内にとどまっている児童生徒が多い。
 ・S Fの運営について、児童生徒に比べて保護者の満足度が低い。
 <<改善案>> ・中等部のS Fは、気候の良い秋に実施する。競技内容については、児童生徒の意見も取り入れながら、今後検討をする。
 ・本学園の恵まれた立地環境を生かした教育活動を目指し、生活科や総合、他教科の年間計画や校外学習計画を見直す。

令和6年度 学校評価アンケートの結果・考察④

その他の指導		児童					保護者					教員	
		R5	R6	基礎	自立	充実	※R5	R6	基礎	自立	充実	R6	
①	わたしは、タブレットの使い方のルールを守っている。	情報モラル指導	95%	95%	95%	89%	97%	92%	74%	77%	75%	71%	100%
②	わたしは、パスワードを秘密にしている。		97%	96%	96%	96%	97%		84%	77%	89%	91%	100%
③	わたしは、安全を意識して、インターネットを使っている。		93%	97%	96%	95%	99%	91%					
④	わたしは、けがなく安全に生活している。	安全な生活	87%	84%	81%	81%	91%		82%	81%	85%	82%	90%
⑤	わたしは、規則的な生活を心掛け、身体の健康を維持している。	規則正しい生活	87%	86%	89%	86%	82%	93%					
⑥	お子さんは、健康維持のために、進んで体を動かしている。	運動習慣							70%	71%	67%	70%	95%
特色ある活動・地域連携													
⑧	全年友好会では、楽しく活動することができた。	特色ある活動	87%	89%	90%	90%	85%						
⑨	学校は、全年友好会（縦割り活動）中等部生徒による初等部SF・清掃ボランティア、5、6年自立期テスト、教員の小中交流などを通して、小中一貫校の良さを生かした取り組みをしている。	特色ある活動（小中一貫）						新規項目	80%	80%	79%	79%	77%
<p> ≪成果≫ ・児童生徒及び教員の評価から、校内ではルールを守って安全に情報機器を活用することができた。 ・本校の特色ある活動である縦割り活動については、満足をしている児童生徒が多い。 </p> <p> ≪課題≫ ・上記の件に関して、保護者の評価は低く、家庭における情報機器の取り扱いについては不安を感じている家庭が多い。 ・運動習慣や小中一貫校ならではの取り組みについては児童生徒に比べて保護者の評価が低い。 </p> <p> ≪改善案≫ ・情報管理の必要性や節度ある利用については、今後も継続的に指導を続け、家庭での実践を呼び掛ける。 ・新体力テストの調査結果からは、本校児童の1週間当たりの運動時間は、市内、全国に比べてとても高いことが分かった。引き続き15分間の休憩時間を確保し、外遊びの機会を維持する。 ・全年友好会よりよい活動になることを目指し、昼休み実施から学級活動の年間計画に位置付ける。 </p>													